

〔目的〕当研究所では，消費者の方々からの相談を“花王エコシステム”に蓄積し，その声を社内・外へフィードバックしている。今回はその中から衣料の洗濯に関する相談に焦点をあてて，家庭洗濯の実情を把握するとともに，5年前¹⁾と比較して，家庭でどのような変化や問題が生じているかを検討した。

〔方法〕花王エコシステムにより，1989年（1月～12月）の洗剤，漂白剤，柔軟仕上げ剤などに関する相談について解析し，1984年と比較した。

〔結果〕5年前に比べて変化のないもの：①商品別では柔軟剤，糊剤に比べ洗剤や漂白剤に関するものが多い。②相談内容をみると相変わらず，黄ばみ，カビ，油などの「汚れ・シミの落とし方」，黄変や変褪色などの「トラブルの対処法」，ウールなどの「衣料の手入れ法」に関する相談が多い。③家庭洗濯での主な問題としては，“衣料の蛍光剤による変色”と“塩素系漂白剤によるワイシャツの芯地の黄変”があげられる。これらの問題は洗濯する前よりは，洗濯後何らかの変化が生じてから相談してくるケースが多い。

5年前に比べて変化したもの：①洗剤のコンパクト化に伴う計量に関する相談の増加がみられた。これらを背景として計量する習慣が徹底してきたようである。②衣料の流行や素材の変化にあわせて，絹などの手入れに関する相談が増加している。③洗濯機の全自動化，大型化などに伴う問題も生じている。

これらの家庭洗濯にかかわる問題については，新たな解決策が望まれているといえる。

1) 日本家政学会第37回大会（1985）にて口頭発表。